

学校法人大阪信愛女学院
大阪信愛女学院短期大学
機関別評価結果

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

大阪信愛女学院短期大学の概要

設置者	学校法人 大阪信愛女学院
理事長名	縄田 紳子
学長名	縄田 紳子
A L O	西野 芳治
開設年月日	昭和34年4月1日
所在地	大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
人間環境学科		70
初等教育学科		130
	合計	200

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

大阪信愛女学院短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 14 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当短期大学はキリスト教（カトリック）の教えを基盤にした明確な建学の精神、基本教育理念が確立している。人への愛を基盤として、一人ひとりを大切にする教育方針で自己啓発を図り社会に貢献する、心豊かな女性の教育が行われている。

この教育目標・教育目的の理解に向けて、「現代と女性」の講義が続けられ、学生主体の「大阪信愛委員会」によってボランティアなど多くの社会奉仕活動が行われている。

この明確な教育方針のもと、教育内容が充実している。学生は、学生の授業評価や要望を取り入れ、より良い授業を目指す教職員による教育を受けている。明確な教育目標に向かって教員や事務職員はファカルティ・ディベロップメント（FD）やスタッフ・ディベロップメント（SD）が行われ、常に学生の授業の改善への努力が行われてきている。

また、併設されている小学校・中学校・高等学校と図書館、体育館、プールなどは共有整備されている。

学生は、担任制によって個々の能力が開発され、就職についても細かな指導がなされている。学生のドロップアウトを抑制するための対策も講じられているが、学科により多少の差が出ている。

社会活動は、教育基本理念に基づき、募金活動、ボランティア活動などが活発である。

当該短期大学の管理運営は、学校法人の協力で行われ、理事会、教授会が十分に機能している。

2. 三つの意見

（1）特に優れた試みと評価できる事項

評価領域 I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「現代と女性」の講座によって女性の情操教育が徹底して行われ、学生主体の「大阪信愛委員会」の組織、運営による募金活動、ボランティア活動など、学生の社会への活動が広く行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生による授業評価の結果をもとに、全教員が「授業改善計画書」を、FD委員会を通して学長に提出するなど、授業改善への取組みがなされている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 担任制が有効に機能して、入学から卒業までの個別指導などのきめ細かい学生支援を実現している。

評価領域Ⅵ 研究

- 一部の教員に偏っているが、科学研究費補助金への応募が行われ、毎年採択されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティア活動を主体とした、募金活動、ホームレスの人たちへの救済支援など、建学の精神・教育理念に立脚した活動が先輩諸姉の過去の活動から継続している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- かなり古くから自己点検・評価活動が行われており、教育に対する改善、改革に意欲的な体制に長い歴史がある。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学科を越えた共通科目を設置するなど、適正なクラス規模の授業となるよう検討することが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

長い伝統の中で幼稚園、小学校、中学校、高等学校が併設されている当該短期大学ではキリスト教（カトリック）の教えが建学の精神、教育基本理念として確立している。

この教育理念による明確な当該短期大学の教育目的、教育目標によって教育が行われている。すなわち人を愛し、人に仕えるという宗教的情操教育によって、自分自身の能力をみつけ育てるという自己啓発教育や、社会に貢献するという明確で具体的な実践教育が行われている。この建学の精神・教育理念の徹底のために「現代と女性」の講座がカトリック教育部によって企画、実施され、一方、学生自身の計画をもとにした「大阪信愛委員会」が、学生が主体となって組織され、募金活動やボランティア活動が行われており、キリスト教（カトリック）の教えによる建学の精神・教育理念に基づいた教育がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

「キリスト教と人間Ⅰ・Ⅱ」「現代とキリスト教」などの科目が、全学生の必修科目として設置されることによって、カトリック精神に基づく教育理念が明確に反映された教育課程となっている。

短期大学の専門教育として十分な内容を備えた教育課程であり、教育課程改善の努力も継続的に行われている。また、各学科・コースの専門教育課程は、それぞれの主要な取得可能資格に必要な科目を中心に組み立てられており、学生が無理なく資格を取得できるように配慮されている。

シラバスは、学生に必要な情報がほぼ網羅され、分かりやすさにも配慮されている。

学生による授業評価が実施されており、その結果をもとに、全教員が「授業改善計

画書」を提出するなど、授業改善への意欲が認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

校地、施設設備などにおいて併設校と共有であるが、それぞれの学校の特色をいかした設置の仕方、利用状況がみられ、基準値も充たされている。特に歴史的重厚な建築物の中に、障害者への配慮が、設備や人的面で適切に行われている。また、当該短期大学の施設設備の地域住民への開放がなされている。

図書館は併設校と共有する施設であるが、独立した建物で多くの利用者の姿がみられる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

一人ひとりを大切にする教育として、担任制によって学生個々の問題を早く把握し、必要に応じて個別の教育プログラムの中で支援が行われている。

また、民間の評価機関による調査を実施し、教育目標への到達度が評価検討されている。この調査に基づいてカリキュラムや学生指導について検討している。

評価領域Ⅴ 学生支援

基礎学力不足の学生に対しては、特に科目を設置することによって学習支援を行っている。また、学習進度の速い学生には、個別指導で対応している。

担任制による個別指導によって、きめ細かな学生支援を実現している。

障害者受け入れの設備が充実しており、入試前から障害者の状態を把握し、入学後も学生生活全般にわたって支援を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、一部の教員ではあるが、海外学会活動を含め、科学研究費補助金の獲得など活発な状況がみられる。また多くの教員が教育に関わる研究に参加している。

研究に関わる条件整備は、週 2 日の研究日の確保や、二つの研究所研究設備の完備など評価に値する条件整備がなされている。

今後、研究所などの施設を有効に活用して地域と連携した研究活動などが望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

キリスト教精神に則った人々への奉仕の精神が確立している。

とくに、明治期からの先輩諸姉によって培われた精神と具体的活動が今日まで継承されて実践につながっている。

社会のニーズと当該短期大学の専門性が一致した中で、社会人学生の受け入れ、地域住民への専門的学問や技術の開放、そして、文化的活動の需要供給をバランスよく実践している。

海外への学生の研修活動、教職員の留学・研究活動など、いずれも数値的には多くはないが、着実な歩みをみせている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催され、学校運営の教育・管理体制は確立している。監事の業務執行も適切に行われている。

学長のリーダーシップのもとに教授会は月 1 回以上開催され、当該短期大学に係る教育・研究上の事項が審議、決定されている。現在、理事長は短期大学学長を兼ね、理事会と教授会の関係は良好で意思の疎通が図られている。

当該短期大学の事務部門は規模に応じ、適切に配置され、日常の業務に対応している。事務に必要な機器の配置なども適切である。事務組織の SD 活動は得られた情報が共有されるように配慮されている。教員と事務職員の関係は良好で、事務職員は学生からも信頼されている。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は適切に行われている。予算の策定、決定、執行などは円滑に行われており、計算書類は適正に表示されている。ただ、財務体質はここ数年消費支出超過の状況が続いているが、その検討が急務と判断されて、現在その改善策が検討されている。

なお、防犯訓練、情報ネットワークのセキュリティ対策、情報資産の管理や個人情報データの流出防止対策など危機対策は適切に行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

教育の改善のための自己点検・評価はほとんど全員の教員が関与する自己点検評価委員会で行われてきている。またその結果は自己点検・評価報告書という形で公表されており、それを参考にして各教員が学長宛に授業改善計画書の提出が義務付けられているように、改革・改善への取組みの体制が整っている。